

白神山地の中身を見よう！秋田県八峰町のジオツーリズム資源

Coast of Shirakami Sanchi: Geotourism resource of Happo Town, Akita Prefecture

林 信太郎^{1*}, 工藤英美², 藤本幸雄³

Shintaro Hayashi^{1*}, Hidemi Kudoh², Yukio Fujimoto³

¹秋田大学教育文化学部, ²NPO法人 白神ネイチャー協会, ³秋田地学教育学会

¹Akita University, ²Association of Shirakami Nature, ³Akita Chigaku Kyoiku Gakkai

秋田・青森県境の世界遺産「白神山地」は広大なブナの自然林の存在で価値づけられている。世界遺産「白神山地」を含む広義の白神山地は、日本海に半島状に突き出している。この海岸部では、白神山地を構成する地質要素を見学することができる。今回の講演では、この「白神海岸」の秋田県側の地域（八峰町）のジオツーリズム資源を紹介し、日本ジオパーク設置の可能性を探って行く。また、ジオパーク設置のための活動状況の報告も行う。

本地域のジオパークとしての魅力は、次の2つの文であらわされるだろう。1) 白神山地はなぜ高い？、2) 火山の地下はどうなっている？では、これについて解説しよう。

「白神山地はなぜ高い？」：白神山地が高い理由は二つある。一つは活発な隆起運動を続けていること、二つめは侵食に対して強い火山岩相が存在することである。隆起運動は、良く発達する段丘地形から実感することができる。また、火山岩相は海岸に露出し、楽に見学できる。熱水変質のため凝灰岩も極めて堅牢である。このような原因により、白神山地の高く起伏に富む地形が成立した。起伏に富む地形にあるブナ林は、伐採されずに保存された。隆起及び侵食に対して強い火山岩相が、世界遺産「白神山地」の成立を考える上で欠かせないのである。

「火山の地下はどうなっている？」：有珠や島原半島など日本の3つの世界ジオパークのうち2つまでは活火山地域にある。しかし、活火山をいくら見学しても火山の中身まで見ることはできない。「白神海岸」の青森県川の地域にある白亜紀のカコウ岩体には苦鉄質のマグマ包有物が発達し、マグマだまり内のダイナミックな過程を実感できる。また、「白神海岸」には、マグマの通り道である約100本の岩脈群がある。火山噴出物はさらに多様で、陸上や水中の溶岩、火山豆石、ペペライト、溶結凝灰岩と水陸両方の多様な噴出物が、博物館のような密度で存在する。

この地域における基礎的学術調査は著者らにより行なわれている。また、地元NPO法人によるネイチャーガイド講習会、八峰町主催のジオパークに関するシンポジウムが行なわれ、日本ジオパーク設置に向けての活動が始まりつつある。

キーワード:ジオパーク,白神山地,マグマだまり,ジオツーリズム資源

Keywords: geopark, Shirakami Mountain, magma reservoir, geotourism resource